

日本英文学会第96回全国大会

開催：2024年5月4日(土)・5日(日)

日本英文学会第96回全国大会プログラム→



パイロン事典



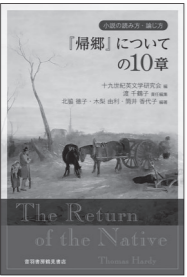
A 5判・528頁・5500円
日本パイロン協会編著・編集主幹田吹長彦 初期の構想より10年余の歳月を費やして刊行する18名の執筆者を擁した本格的辞典。カラー図版32頁。
音羽書房鶴見書店

大学受験から翻訳実務まで
英文法徹底解説集ダイジェスト
英文法徹底解説集2・3集(=本編)の
縮約版+a(基礎編)



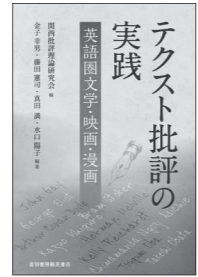
A 4判・370頁・4950円
一宅仁著 本編の要所をまとめた、検索が容易な使い易いダイジェスト版。他書には無い内容も豊富で、翻訳や指導に必携の書。弊社HPをご覧ください。
英文研出版

『帰郷』についての10章 小説の読み方・論じ方



四六判・230頁・3080円
十九世紀英文学研究会編 渡千鶴子責任編集・北脇徳子・木梨由利・筒井香代子編著 ハーディの名作『帰郷』を21世紀視点から読み直す10の試み。
音羽書房鶴見書店

テキスト批評の実践 英語圏文学・映画・漫画



四六判・308頁・3520円
関西批評理論研究会編 金子幸男・藤田憲司・真田満・水口陽子編著 批評理論を平易に解説しながらテキストを読み解き、その面白さを味わう9論考。
音羽書房鶴見書店

二〇二四年五月四日(土)・五日(日)のゴールデンウィーク期間中に日本英文学会第96回全国大会が東北大学川内北キャンパス(宮城県仙台市)で開催される。この全国大会開催を機に「英米文学」研究の「ス」&「メ」と題して各出版社お薦めの書籍を紹介する。

特集 英米文学／研究書のススメ

日本英文学会の今年度の全国大会は、五月四日・五日、東北大学川内北キャンパスで開催される。この大会は、仙台市などである。今年度は、コロナ禍が始まった二〇二〇年以降初めての地方開催となる。コロナ禍は収束したのやうにしているのやうに、まだ全然としなかつた昨年度の前半期を思い出すと、人の動きもすっかり停滞した感じがする。私共の通学途中で通過する京都駅、桜のシーズンとこのころもあつて、連日それはすさまじい数の観光客で賑わっている。学会シーズンというものがあつて、おそくおそく秋になるかと思つたが、その全国大会が五月に開催されるようになったのはいつからなのかわからない。おそくおそくを思つて、学会シーズンというものがあつて、おそくおそく秋になるかと思つたが、その全国大会が五月に開催されるようになったのはいつからなのかわからない。

「英文学研究」でたどる 杜の都の開催記

竹村 はるみ

英文学会第八回大会は、参加者が青葉茂れ、従来東京及び京都に行はれてきた慣例を破つて、昭和三十五年五月、仙台市に開催された。会場は仙臺の南郊八木山の山腹に立つてゐる宮城縣女子専門学校で、同校からは、仙台を隔て、金華山が望まれ、背後には蔵王の白い頂が光る。仙臺の市街は一望の下に望まれるといふ眺望の絶佳なる上に、校舎を取巻く林は一度、草創期の学会に思いを馳せるのに、「英文学研究」の過去号は格好のよすがとなる。そこから呼び上がるのは、何とも大らかなのであつた。ある。二〇二四年の開催記を、前回の大会の発表者は、今回は遠慮して頂きたい。(第一巻) 方針も微塵もブレない。そこには、物、市内見物等の便宜を、市内外の交通の精神である。「本會は會員相互の研究に資し、且つ親睦を図る爲め、講演會を開き、又同好者の研究発表機として、年四回(一、四、七、十月)「英文学研究」を刊行し、之を會員に至つてシムルである。プロフェッショナルが追究される中で古き佳きアマチュアリスムの伝統は、遠い昔のことなどは、好ましくない。親睦の場として学会が在り続けることを願つてやまぬ。(たけむら・はるみ) 日本英文学会副会長・立命館大学教授)

※価格は税込み(10%)表記

都市と連帯
一文学的ニューヨークの探究
四六判・406頁・3520円
藤野功一編著 1920年代～2010年代のニューヨークを舞台とした小説と演劇において、孤独の現実と連帯への希求がいかに描かれたかを10名の視点から辿る。
開文社出版

ロマンスの倫理と語り
いまホーソーンを読む理由
A 5判・480頁・5280円
西谷拓哉/高尾直知/城戸光世編著 西谷拓哉/高尾直知/城戸光世編著 西谷拓哉/高尾直知/城戸光世編著 西谷拓哉/高尾直知/城戸光世編著
開文社出版

英語の発信力を磨く
異文化理解の視点
四六判・114頁・1540円
藤直仁/鈴木邦成著 スポーツ、ビジネス言語、思想、思考の視点から異文化理解を著者の眼力とその専門性、深層分析を著者の知の茶譜と創作方法を解説。
開文社出版

ジョン・バンヴィルの本棚
一伝統と個人の才能
四六判・204頁・2420円
加藤洋介著 領域横断の知と新しい批評の形式を模索する著者の同時代文学論。ノーベル文学賞候補にも挙がるバンヴィルの知の茶譜と創作方法を解説。
開文社出版

英国一九世紀小説の光景
海老根宏文学論集
A 5判・572頁・4950円
海老根宏著 長年にわたる研究論考の集成。英文学の精髓を作家論、作品論を通して平易な文体で伝える。小説読解のヒントを与えてくれる綿密な索引付。
音羽書房鶴見書店

神聖な言葉の世界
現代北米先住民文学の「夜明け」
A 5判・412頁・4180円
横田由理著 著者の数十年にわたる現代ネイティブ・アメリカン文学研究の結実と成果を余すところなく伝えて西歐文化中心の世界観の再考をも促す。
音羽書房鶴見書店

市河三喜伝
英語に生きた男の
出自、経歴、業績、人生
A 5判・514頁・14300円
神山孝夫(著) 一生を日本の英語英文学研究の発展に捧げたのが国語学出身の祖、市河三喜の初の本格的伝記。現存資料を網羅的に精査。図版多数。
研究社

英語教育と機械翻訳
新時代の考え方と実践
A 5判・325頁・3300円
山田俊監修/小田登志子編著 機械翻訳のしくみや英語教育との関連に関する情報を掲載するとともに、新時代にふさわしい考え方を提案する。
金星堂

イギリス世紀末文学の詩学
ウォルター・ペイターと
オスカー・ワイルド
四六判・457頁・4400円
玉井晴著 ペイターとワイルドを中心に、イギリス世紀末文学の言説空間の特質をテキスト構造と言語意識に注視して解明。その今日的意味を探る。
金星堂

ラルフ・ウォルド・エマソンと
奴隷制廃止主義
A 5判・463頁・6600円
小倉いずみ著 エマソンが人生の中でどのように奴隷制廃止運動にかかわったかを探究し、さらに彼の思想の普遍性をも分析するものとなっている。
金星堂

クラッシュ・ザ・バリケード
個を超えて、分断を越えて
四六判・180頁・3080円
鈴木章能・瀬上和典編著 本書では、種々の他なるものとして在る人間の普遍的な面について焦点を当て、英文学の主要分野から多角的に考察する。
金星堂

アメリカ映画とエスニシティ
だから映画はおもしろい
新書判・370頁・1980円
君塚淳一・馬場聡・河内裕二編著 39本のアメリカ映画を中心に、関連する作品も多数紹介。映画を通して「アメリカ」を理解するためのガイドブック。
金星堂

シャーロット・ブロンテ
過去から現在へ
四六判・240頁・3080円
パツィ・ストンマン著/樋口陽子訳 作品と人生の関わりを解説する入門書。特に父関係(家族、社会階層間、男女間)に重点を置き分析する。
彩流社

「人種か、階級か」を超えて
大恐慌期アラバマにおける
コミュニストの闘い
A 5判・490頁・6270円
ロビン・D・G・ケリー著/村田勝幸訳 それぞれの社会的背景から運動を組織化したコミュニストたちの軌跡。労働史・黒人史の基本図書。
彩流社

ナラティブとダイアローグ
の時代に読むポー
四六判・268頁・2860円
辻和彦・山本智子・中山悟視編著 「ナラティブ」と「ダイアローグ」を鍵概念に伊伊独中、心理・教育・ジェンダー等の異なる視点からポーを照射。
彩流社

アメリカ文学にみる
女性の教育
四六判・296頁・3300円
野口啓子・池野みさお・山口ヨシ子編著 独立革命後の建国期～20世紀の転換期にかけて、「女性の教育」をテーマに女性作家12名の作品を論じる。
彩流社

スローでディープな英文精読
(こは)を極限まで読み解く
A 5判・234頁+別冊24頁・2420円
今井亮一・平沢慎也(編・訳・解説) 言語学と文学の専門家による、注釈も斬新な読解テキスト。英文を余すところなく読み解き味わうことができる。
研究社

現代イギリス小説の子どもたち
無垢と悪悪を超えて
四六判・238頁・3520円
越前彦(著) テキストを丹念に読み解き、1970年代から2010年代における社会状況の変化に伴う子ども概念の「揺らぎ」を多角的に読み解く。
研究社

イギリス文学入門[新版]
A 5判・508頁・3850円
石塚久郎責任編集 重要な140人の作家について生立ち、代表作、批評の流れなどを見開きで紹介。参考文献やコラムをあわせて掲載。
三修社

アメリカ文学入門[新版]
A 5判・466頁・3850円
諏訪部浩一責任編集 代表的作家120人を紹介した、アメリカ「文学」の世界へのガイドブック。文学を能動的に読む工夫を提示。
三修社

幽霊のはなし
四六判・320頁・2750円
ラッセル・カーク著/橋手拓治編訳 アメリカ保守運動の「ゴッドファーザー」が描く幽霊物語。恐怖とロマンが織りなす傑作6編を収録。初訳。
彩流社

越境する作家たち
四六判・308頁・3300円
田野勲著 母語と外国語とを往還する5人の作家(ルビ英雄、多和田葉子、アーサー・ピナード、カズオ・イシグロ、村上春樹)を論じる批評集。
彩流社

神を戴く西洋世界、神々の坐す日本
文学文化論集
四六判・448頁・4400円
岡田俊之編著 トマス・カーライル研究を極めた英文学者による文学文化論集。カーライル論、T.S.エリオット論、読書案内、學問の系譜等。
彩流社

ミドルマーチ(上・下)
ジョージ・エリオット全集7
A 5判・上600頁/下576頁・各8800円
福永信哲訳/内田能綱・海老根宏監修 英国地方都市を舞台に展開する人間模様、キリスト教と科学がせめぎあう時代相を凝視する作家成熟期の新訳。
彩流社

日本英文学会全国大会開催を機に